

勝林寺夕報

なさるのです。

たとえきたない手いやしい指みにくい掌であろう
とも、如米さまのおよび声が聞こえたら、そのおよ
び声のなかで合わさずにはおれない指と手と掌です

合掌しお念佛申して、いま一度合掌の意味と合掌のある日ぐらしとを考えてみたいものです。

合掌（勝林寺テレホン法話）
この・今の・私を（勝林寺テレホン法話）



如来さまをおがむとき、胸のまえに掌を合わせて合掌いたします。それが仏教徒のいちばん美く

手を合わす姿、合掌は、実は古い印度からのな
らわしです。

三千年もの昔から、二十世紀の現代にいたるま
で、印度ではどんなときのあいさつにも「合掌」
手を合わせてあいさつをします。

「こんにちわ」でも「さようなら」でも、また
「ありがとう」のときはなおさら、「ナマス・ティ
」といふ「ナマス・カーラ」といつて掌を合わせる
のです。

左の手にも左の手としての独特のはたらきがあります。右と左とは、たらきはちがついていても、また、それぞれの手の一本一本の指のはたらきはみな別別であつても、あなたの前ではたゞ一心にあなたを尊敬いたします、こういう心で印度の人たちはあいさつのとき掌を合わせのだといわれております。

「帰命」というところは、お祝迦さま・阿弥陀さまお二方の如米さまが、もしお前をこの親の子として摂取しないならば私はあなたの親とはよばれません、というおよび声に信頼して、すなおにへいと、ただ如米さまのおおせを仰がせていただくことです」と親嬢さまはみほとけさまの前に合掌

どんな問題でも
「私」を問題としないなら、正しい答えは得られ
ない。

「世の中を正すためには宗教は是非とも必要です」とさけんでいる人は沢山います。「あそこに人を差別している人がいる同和教育をしなければ」とがんばっている人も多くいます。「戦争はあってはなりません。核戦争に反対しましよう」と大声で出張している人も大勢います。
しかし、宗教でも同和問題でも平和のことでも「私」ぬきで一人ごと他人ごととして考えられるてゐる間は、正しい答えは出てはまいりますまい。どんな問題でも「私」を問題でしないなら、正しい答えは得られ

卷之三

お釈迦さまはそのご一生の最後にお弟子たちを
戒めねました。「私を依り所としなさい。他を依
りどころとしてはなりません。真実を依り所とし
なさい、それ以外のものを依よどころにしてはな
りません」

この、今の、私は、ほんとに差別とは関係ないのか。戦争や争いをおこさないでおれるのか。この、今の、私に、はたらいでくださる私の真実の親、如米さまはいつたいどんなほどけさまなりませんか。

この、今の、私。

この、今の、私がぬけたところの宗教も運動もそれはしよせん他人ごとであり絵そらごとではありますか。

（裏面米へ続く）

光明顯赫 みほとけの光
かゞやくなか

みほとけの光
かゞやくなかに
新らしい春を迎えまし

光明顯微

金華志

年もよ

勝林寺	出石組	十九日	十八日	勝林寺	出石組	十九日	十八日
寺	寺	十九日	十八日	寺	出石組	十九日	十八日
同	同	二十九日	二十八日	同	同	二十七日	二十六日
連研中火祭修	「みのりも出く会」	勝林寺	出石組	十九日	十八日	十九日	十八日
	「みのりも出く会」	寺	組	十九日	十八日	十九日	十八日

月月の開法会

毎月十日は「玉日会」
会場 真覚寺
時間 午後二時より
講師 出石町内住職輪番

毎月十日は
十六夜会
勝林寺

毎月二十五日は 一みのりを開く会
会場 勝林寺 時間 夜七時半
講師 勝林寺住職

今月の「十六夜会」は、都合により
九日に変更させていただきます。
さそい合つてお参り下さい。

